

多チャンネル表面筋電図を用いた脳・神経・筋疾患における新規疾患バイオマーカーの探索

概要

京都府立医科大学附属病院では、正確な診断、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。

その一つとして、京都府立医科大学脳神経内科では、現在、脳神経内科関連疾患の患者さんを対象として、筋肉の活動の特徴についての「臨床疫学研究」を行っています。

末梢神経・神経筋接合部・筋疾患患者、また、中枢性に筋力低下、筋痙性をきたす脳卒中などの疾患患者に対し、多チャンネル表面筋電図を施行し、多チャンネル表面筋電図にて得られるパラメーターが、疾患進行・回復、もしくは治療効果判定のための新規バイオマーカーとしての有用であることを明らかにすることを目的としています。

今回の研究の実施にあたっては、京都府立医科大学の臨床研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2023年3月31日までです。

連絡先：京都府立医科大学附属病院 脳神経内科

職・氏名：助教 能登 祐一

電話：075-251-5794

末梢神経障害の軸索興奮性評価に関する研究

概要

京都府立医科大学附属病院では、正確な診断、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。

その一つとして、京都府立医科大学脳神経内科では、現在、脳神経内科関連疾患、主に末梢神経障害を有する患者さんを対象として、末梢神経の機能の特徴についての「臨床疫学研究」を行っています。

従来の神経伝導検査に加えて、Bostock らの threshold electrotonus 法を用い、末梢神経軸索のイオンチャンネル機能の病態を明らかにすることを目的としています。治療前後などの経時的変化を評価し、治療により軸索興奮性のパラメーターがどのように変化するか検討し、従来の神経伝導検査と比較し疾患毎にその有用性について検討します。

今回の研究の実施にあたっては、京都府立医科大学の臨床研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2023年3月31日までです。

連絡先：京都府立医科大学附属病院 脳神経内科

職・氏名：助教 能登 祐一

電話：075-251-5794

神経・筋超音波検査を用いた神経筋疾患の診断技術の確立

概要

京都府立医科大学附属病院では、正確な診断、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。

その一つとして、京都府立医科大学脳神経内科では、現在、脳神経内科関連疾患を有する患者さんを対象として、神経・筋超音波検査の有用性についての「臨床疫学研究」を行っています。

超音波検査機器の技術革新により、超音波検査はこの15年ほどで、より高解像の画像が得られるようになり、より簡易に検査できるようになってきました。このことにより、末梢神経、神経根、筋肉の評価をより詳細に行うことが可能となり、これまでの整形外科疾患のみでなく、神経筋疾患の評価にも多く用いられるようになってきました。

本研究では、これまでの診断法・検査法に比較して、神経・筋超音波検査が、神経筋疾患の診断感度の上昇に寄与すること、また神経筋疾患の病態解明に寄与することを明らかにすることを目的としています。

今回の研究の実施にあたっては、京都府立医科大学の倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2021年3月31日までです。

連絡先：京都府立医科大学附属病院 脳神経内科

職・氏名：助教 能登 祐一

電話：075-251-5794